

2節 色が見えるまで

1、光と物と眼が色を決める

色が見える3つの条件

- ①光
- ②眼が働いている
- ③見る対象がある

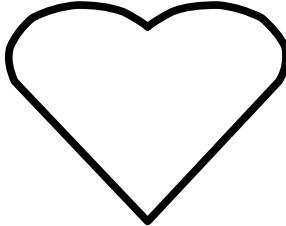
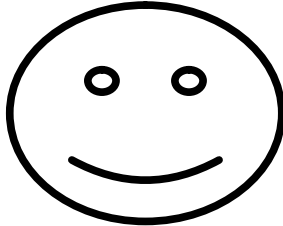
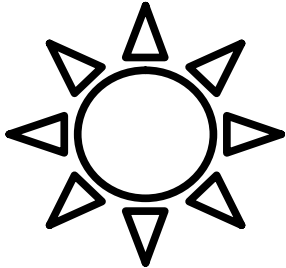


ある色が一定に見えるためには、3つの条件を一定にする。

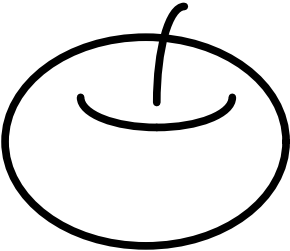
(実践 P1 下段の図に→を書き込んでください。)

実践 P1

自然光
(太陽)



人工光



1) 物理的な色の世界

① 光の特性と色 (5章 光から生まれる色)

光は電磁波の一種

可視光線

可視エネルギー

可視放射

自然光と人工光

太陽の光 = 白色光

(人工光でも白い色は白色光という)

} = 光

②物体の特性と光の関係

図表1-4

(物の色は、ある特定の色の光だけが透過したり、反射してその物の色になる。)

色を見る＝選択されたある色を見ている。

虹を思い浮かべて見ましょう。

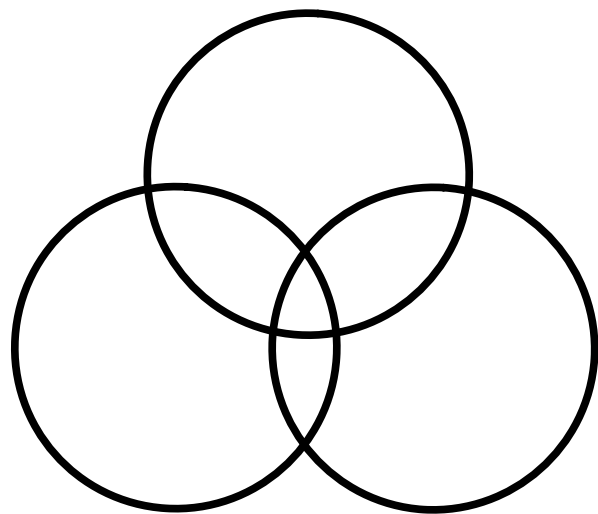
虹は7色＝光には7色が含まれている。

※「標準イルミナント」(7章 色の測定)

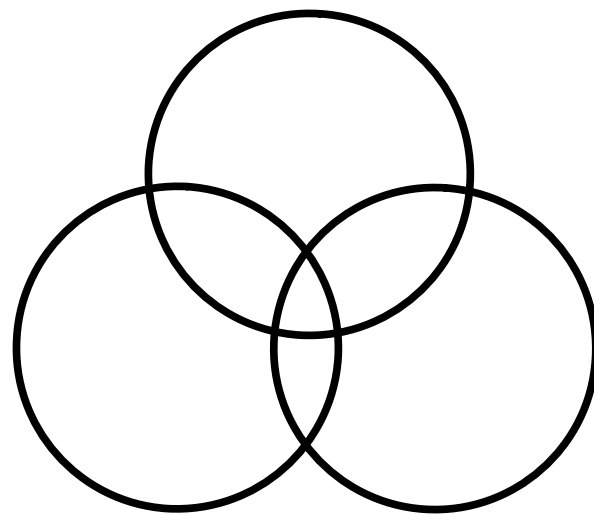
「実践」P5

三原色について

光の三原色



物体色の三原色



タングステン電球＝白熱電球、白熱灯
赤みを帯びた光
蛍光灯＝青みのある光
(5章 光から生まれる色)

③光の特性と眼の特性を一定に保つ



「標準観測者」(7章 色の測定)

④光の自然現象によって生じる色

光の物理的な現象

ア、反射

イ、吸収

ウ、屈折

エ、干渉

オ、回折

いずれも後で説明(5章 光から生まれる色)

⑤色の伝え方

ア、色名による方法

イ、色の三属性

ウ、三原色の原理を使った方法



後で説明(3章 色を表し、伝える方法)

2) 心理的な色の世界

① 色の見え方

「色とは、心理物理的な存在」

図・表1-7

(色の世界は物理的現象と心理的現象で、
成り立っている。)

図・表1-8→明度対比(後で説明)

そのほかの色の見えに関係した現象

ア、色の恒常現象 イ、対比現象

ウ、同化効果 エ、残像現象

オ、面積効果 (6章 色が見える仕組み)

②色の心理効果、イメージ

軽い感じ ⇔ 重い感じ 白or黒

白のイメージ・・・軽い、柔らかい、
さわやか、清潔



各種製品のイメージに応用されている。
(2章 色と心理)

③色の調和とデザイン

ア、色の調和・・・ギリシャ時代から数多く論じられている。(4章 配色と色彩調和)

イ、色彩調和・・・普遍的な法則＋実用上の配色の条件